

チャンドマニ・ハル・オール遺跡に関して(補足)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大谷, 育恵, OTANI, Ikue メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00069166

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



<研究動向>

チャンドマニ・ハル・オール遺跡に関して（補足）

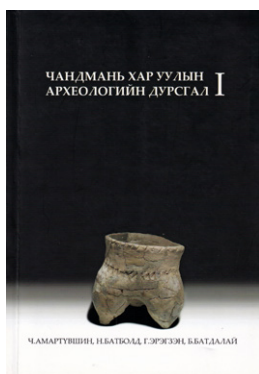
大谷 育恵

上掲の村上論文が報告するチャンドマニ・ハル・オール遺跡は、東西約 3.1km、南北約 2km の範囲に分布する遺跡の総称であって（村上論文図 1）、青銅器時代からモンゴル帝国期の間のような様々な時期の遺跡が分布し、調査されている。チャンドマニ・ハル・オール遺跡に関しては、発掘調査成果を展示した際の図録 1 冊と報告書 2 冊が刊行されている（図 1）。

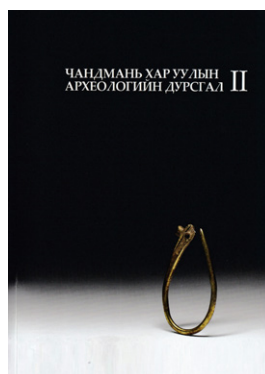
1. Амартүвшин Ч., Батболд Н., Эрэгзэн Г., Батдалай Б., 2015, *Чандмань хар уулын археологийн дурсгал I*, УБ. [アマルトゥブシン Ch.・バトボルド N.・エレグゼン G.・バトダライ B. 『チャンドマニ・ハル・オールの考古遺跡 I』]

2. Амартүвшин Ч. [ред], 2020, *Чандмань хар уулын археологийн дурсгал II*, УБ. [アマルトゥブシン Ch. 編『チャンドマニ・ハル・オールの考古遺跡 II』]
3. Эрэгзэн Г., 2015, *Дорнын говийн эртний соёл (Үзэсгэлэнгийн каталоги)*, УБ. [エレグゼン G. 『ドルニン・ゴビの古代文化 (展覧会カタログ)』]

報告書の I 巻は発掘調査報告書であり、II 巻は出土した遺物に関する論考で構成されている。両書の内容は下記目次のとおりである。



1. 報告書（報告篇）



2. 報告書（論考篇）

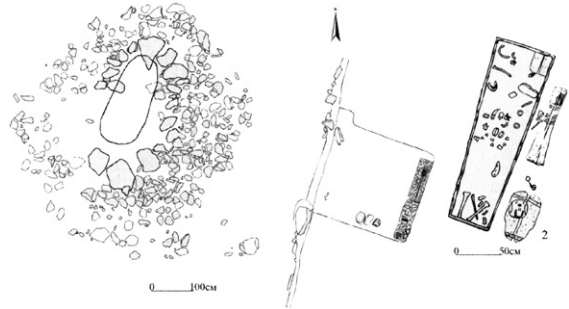


3. 展示会カタログ

チャンドマニ・ハル・オール遺跡に関する刊行物

『チャンドマニ・ハル・オールの考古遺跡 I』

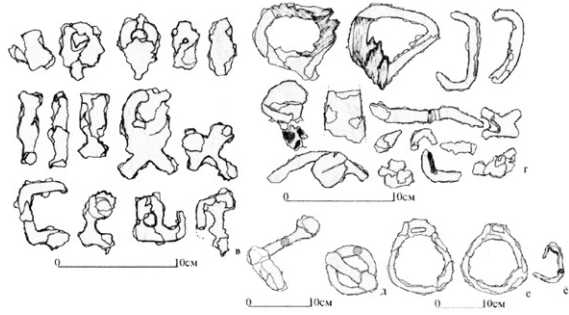
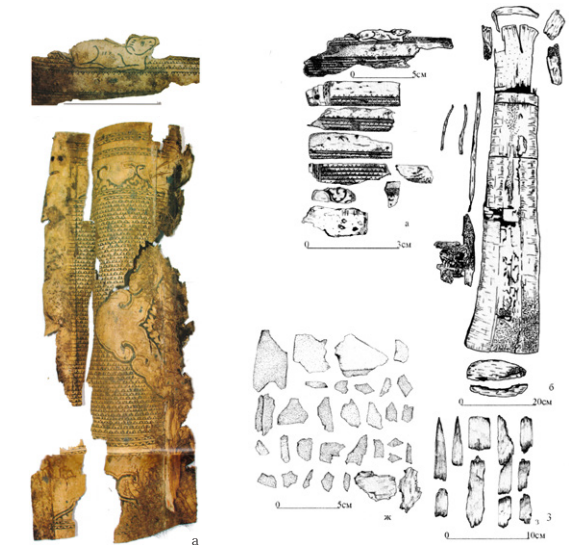
ごあいさつ……………6
 はじめに……………14
 I. 調査の背景、遺跡の環境……………16
 II. 青銅器時代の墓……………23
 III. 匈奴時代の墓……………155
 IV. モンゴル時代の墓……………196
 V. 石築遺構……………314
 謝辞……………345
 『チャンドマニ・ハル・オールの考古遺跡 I』
 への献辞……………347



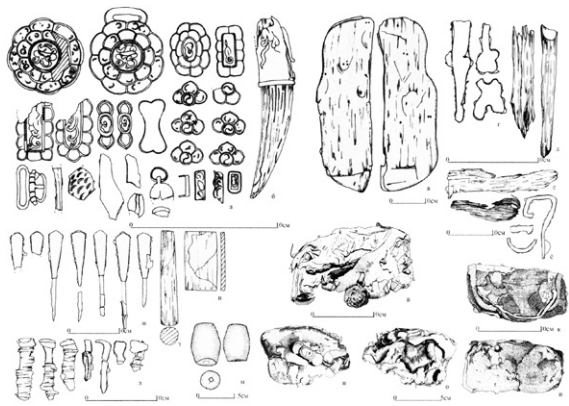
チャンドマニ・ハル・オール 77 号墓

『チャンドマニ・ハル・オールの考古遺跡 II』

前言…8
 編集者の辞…10
 チャンドマニ・ハル・オール付近で行った新たな発掘調査 アマルトゥブシン Ch.・バトサイハン Z.・ハニーチャーチ W.・ブライト J.・ガルダン G.・エルデネ B.・アマルビレグ Ch. ……14
 チャンドマニ・ハル・オールで発掘した 1 基のモンゴル時代の墓について エルデネボルド L.・ツェベンドルジ Ts. ……31
 チャンドマニ・ハル・オールの“遺構-162”再論 アマルトゥブシン Ch.・ガルダン G. ……41
 チャンドマニ・ハル・オール 7 号墓から出土した漆耳杯研究 内田宏美……………60
 チャンドマニ・ハル・オールの金耳環比較研究 バドマ-オヨ B. ……67
 チャンドマニ・ハル・オールの墓から出土したいくつかの鉄あるいは青銅製品の成分分析 박창식……………75
 チャンドマニ・ハル・オールの墓から出土したいくつかの木製品の細胞変壊と樹種同定研究 オヨントルガ M. ……102
 チャンドマニ・ハル・オールのいくつかの遺構から出土した織物資料の科学調査結果 村上智見……………115
 チャンドマニ・ハル・オールの発掘で出土した漆耳杯について バトボルド G. ……126
 チャンドマニ・ハル・オールのモンゴル時代墓に付随する距骨・踝骨研究 マンダフ D.・バヤン-オルシフ B. ……131
 古墓出土品の材質科学調査について アンガ

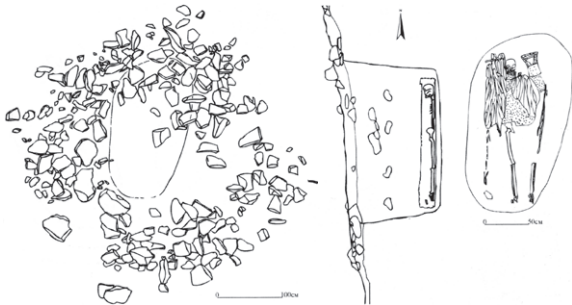


a. 靫の骨製部品 b. 白樺製靫 b, г. 鉄製品 d. 鉄の銜と銜環 e. 鉄錠 e. 鉄鉤 ж. 銅碗片 з. 木の破片

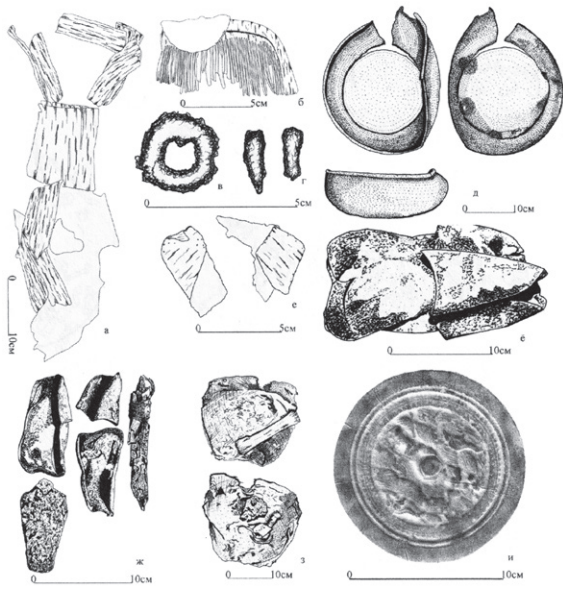


a. 銅製装飾, 銀帶飾, 宝貝, 銀鈴 b. 骨鐺 b. 靫の白樺製覆い г. 鉄製品 d. 木製品 e. 白樺と木の破片 e. 鉄鉤 ж. 鉄鏃 з. 木茎 и. 砥石 й, н, о. 銅装飾のついた革製品 л. 鉄釘 м. 緑松石珠 к, п. 織物片

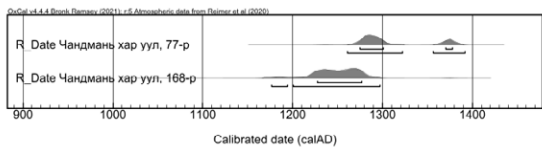
ラグスレン O・ムンフツェツェグ B……………143



チャンドマニ・ハル・オール 168 号墓



チャンドマニ・ハル・オール 168 号墓の出土遺物
 a. ボグタグ (罍罍冠) b. 木櫛 v. 鉄環 g. 鉄釘 d. 銅碗
 e. 馬車の形をした装飾物 e. 革袋 ж. 革片 z. 粗織物片 и. 銅鏡



墓番号	測定値	較正年代 (1σ)	較正年代 (2σ)
77 号墓	703 ± 36 BP	1275-1301 AD(57.7%) 1370-1378 AD(10.5%)	1261-1322 AD(70.8%) 1357-1391 AD(24.6%)
168 号墓	775 ± 44 BP	1227-1276 AD(68.3%)	1176-1194 AD(3.5%) 1201-1297 AD(92.0%)

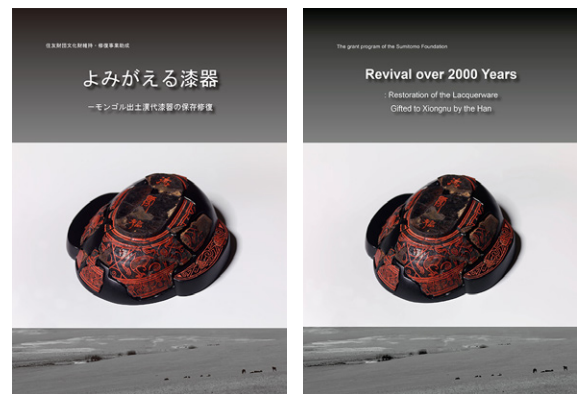
チャンドマニ・ハル・オール 77 号墓と 168 号墓の放射性炭素年代測定の結果

上掲目次のとおり、上掲村上論文は『チャンドマニ・ハル・オール遺跡Ⅱ』にモンゴル語で掲載されたものが元になっている。77 号墓と 168 号墓の墓に関する内容は含まれていないので、ここで補足する。

77 号墓は直径約 5.7m、168 号墓は直径約 4.6m の地表上に積石のある円墳で、竪穴土坑の内部には木棺が安置されていた。77 号墓の墓壙は深さ 2.6m、木棺は長さ 2m、頭部側幅 70cm、足側幅 42cm の台形であった。被葬者は身長 171.4cm の 20-25 歳のモンゴロイド男性。木棺の左手側長辺近くには、頭部側に白樺製の鞞、足側に轡、鞞の残存物とその覆いの白樺樹皮類が置かれていた [Amartuvshin et al. 2015:218-220]。

168 号墓の木棺は長 1.9m × 0.6-0.7 と推定され (図の被葬者右手側は木棺側板残片)、被葬者は身長 160.3cm の 55-60 歳女性であった。被葬者頭蓋骨の周囲で絹やフェルト片が出土しており、モンゴル語でボグタグと呼ばれるいわゆる罍罍冠に由来するものであろうと報告されている [ibid.:240-241]。

なお、チャンドマニ・ハル・オール遺跡の匈奴時代の墓については、7 号墓から出土した紀年銘漆器の修復を日本で行っている。リポジトリ公開しているので、利用していただきたい。



住友財団「海外の文化財維持・修復事業助成」(2019~2020 年度)により修復した匈奴の遺跡から出土した漢代紀年漆器パンフレット

2 点の漆器を修復し、表紙の耳杯がチャンドマニ・ハル・オール 7 号墓から出土した資料。永始元年 [BC 16]、蜀郡西工製。パンフレット PDF 公開先 (京都大学学術情報リポジトリ KURENAI) : <http://hdl.handle.net/2433/276083>